

令和3年度（2021年度）学校評価報告書(定時制)

令和4年3月22日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌東高等学校長 田 尻 勝 敏

次のとおり令和3年度（2021年度）の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 自己有用感を持たせるための実効性ある教育活動の推進 (2) 新学習指導要領を踏まえた教育内容の検討（カリキュラム・マネジメントの促進） (3) 主体的な学習態度の育成（基本的生活習慣や自学自習習慣の確立） (4) 協力・協働体制の確立（チームとして機能する組織体制の構築） (5) 生命を尊重する心と倫理観、規範意識の醸成 (6) いじめの未然防止・早期発見・早期解消に向けた取組の充実 (7) 教職員の服務規律の保持徹底と働き方改革の推進
--

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営 教育目標	○学校の教育活動全般を通して、基本的生活習慣や <u>自ら学ぶ姿勢の醸成を図り</u> 、自己有用感に繋がる実効性のある教育活動のさらなる推進が必要である。 ○学校課題の明確化、教職員の経営参画・協働体制のより一層の推進を図ることが必要である。 ○カリキュラムマネジメントに係るPDCASサイクルの機能化を推進し、業務内容の改善や教育活動の質の向上を図ることが必要である。 ○校内研修などを通して、 <u>来年度より実施される学習指導要領に基づく授業内容の改善</u> を図ることが必要である。	一定の成果が認められる。
改善方策	○ <u>新学習指導要領に基づき</u> 、常に生徒個々の課題を共有し、学び直しを中心に生徒一人一人の個性・能力を伸ばすことで、自己有用感を持たせ、社会人としての在り方や成長を図っていく。 ○「報告・連絡・相談」の徹底を図り、よりよい学校の在り方を共有することで教職員の経営参画・協働体制の醸成を図り、外部関係機関との連携を一層推進する。 ○定例職員会議でのPDCASサイクルの充実を図り、共通理解のもと、業務の改善と教育の質の向上に努める。 ○業務の平準化により一層取り組むとともに、働き方改革の徹底と <u>効率的な業務推進</u> を図る。	
教科指導	○学習内容の精選を徹底し、新学習指導要領に基づく、学力の保障を図ることが必要である。 ○生徒による授業評価の活用や考査の結果等を踏まえ、指導方法や指導内容の工夫・改善による <u>授業の再構築に努めることが必要</u> である。 ○多様な生徒の学びの在り方を踏まえた評価の実施に向けて、 <u>評価方法や評価内容の在り方の確立に努めることが必要</u> である。	中学時代に不登校であった生徒も含めて、充実した学校生活を送っていることは重要である。
改善方策	○基礎学力(基礎基本内容)の徹底と定着を図り、 <u>生徒の関心意欲の喚起に伴う</u> 学習意欲の向上と基本的な学習習慣の確立に取り組む。 ○授業評価アンケートの有効活用を図り、学習に対する生徒個々の意識改善に努めるとともに、「主体的・対話的な学び」に基づく <u>授業内容の改善に取り組む</u> 。 ○新学習指導要領を踏まえ、各教科において評価方法(観点別評価方法や評価内容)のより一層の改善・充実に努め、生徒の学ぶ意欲の向上を図る。	
特別活動	○「学校支援ボランティア事業(SAT)」及び「高大連携による環境教育」により、特色ある教育活動の改善と充実が必要である。	中学時代に不登校でも生徒が先生方を信頼しているからこそその取組の充実が、図られていると思う。
改善方策	○学生支援ボランティア(SAT)や出前授業をはじめとする外部の教育資源の有効活用の継続、 <u>改善とを図り</u> 、学習意欲の向上の推進を図る。	

進路指導	<p>○コロナ禍で規模を縮小した企業見学や学校見学会の内容の改善、日常の進路学習活動など、学校生活全体をとおしてより一層生徒の進路意識を醸成を図ることが必要である。</p> <p>○進路情報や資料を収集・整理、関係機関等との連携、キャリアガイダンス・カウンセリングの充実をより一層図ることが必要である。</p> <p>○早期からの生徒個々の自己理解の深化を図る指導の充実が必要である。</p>	<p>「東高定時制に入学してよかった」という声がアンケートで見られることから、一定の成果が認められるのではないかと。</p>
改善方策	<p>○企業説明会や専門学校説明会へのさらなる積極的な参加や、外部講師を招いた進路講話やキャリアガイダンスの充実を図り、生徒の進路選択に係る基礎的・基本的な資質・能力の育成を図る。</p> <p>○きめ細かな進路情報の提供をとおして、早期に生徒の進路目標を確立させて積極的な進路活動に取り組ませる。</p> <p>○日常の進路活動と学校生活全体をとおして、生徒の自己理解の深化を図り、社会人として必要な基礎的な能力(生きる力)を育成する。</p>	
生徒指導	<p>○生徒と教師の相互理解を通して、基本的な生活習慣の定着を図り、厳しい規律の中にも愛情を持った指導に努めることが必要である。</p> <p>○社会生活での言葉遣いやマナーを指導するとともに、日常の学校教育全般の中でコミュニケーション能力の育成を図ることが必要である。</p> <p>○生徒の家庭や職場及び関係機関等との関係強化を図ることが必要である。</p>	<p>「東高定時制に入学してよかった」という声がアンケートで見られることから、一定の成果が認められるのではないかと。</p>
改善方策	<p>○全教職員の共通理解のもと、生徒教師双方の相互理解を大切にしながらも、厳しさと愛情のバランスの取れた指導に取り組む。</p> <p>○挨拶やマナー指導、生徒会活動や社会体験活動等、あらゆる教育活動の機会を活用して、コミュニケーション能力や社会性の育成を図る。</p> <p>○生徒の家庭や職場及び関係機関等との連携を早期の段階から図ることにより、いじめや問題行動、非行の未然防止により一層取り組む。</p>	
健康安全給食	<p>○「外部講師による講話」や、「保健だより」などの活用を図り、生徒自身の心身の健康に関する指導の充実を図ることが必要である。</p> <p>○性教育・薬物・SNSに係る安全教育を行うとともに、非常災害時等における防災安全教育並びに危機管理能力の育成が必要である。</p> <p>○給食指導の充実を図るとともに、生徒に安定して給食を提供することが必要である。</p>	<p>一定の成果が認められる。</p>
改善方策	<p>○外部講師による「講話」の実施、「保健だより」の定期的な発行の継続を図り、心身ともに生徒自身の健康維持に関する指導の充実を図る。</p> <p>○外部機関と連携した安全教室や年2回の避難訓練の実施により、事故防止に向けて生徒の危機管理能力の向上を図る。</p> <p>○全生徒のアレルギー調査を定期的実施するとともに、生徒個々の引き継ぎを中学校との間で綿密に行い、食育指導の充実を図る。</p>	
家庭・地域との連携	<p>○学校のホームページの有効活用を図り、外部に対して教育活動を積極的に情報発信していくことが必要である。</p> <p>○地域や外部団体との交流を通じた諸活動などの取組の推進を図り、生徒自身の自己有用感や主体性の育成を図ることが必要である。</p>	<p>一定の成果が認められる。</p>
改善方策	<p>○学校のホームページのより一層の内容の充実を図る。</p> <p>○定時制と外部団体による地域と連携した諸活動などの取組を検討して推進を図る。</p>	
公表方法	<p>○学校ホームページ</p>	